

香川大学教育学部 附属教育実践総合センターニュース

No. 38

平成 25 年 9 月 30 日発行

目 次

特集 平成 25 年度 教育実践総合センター事業について	1	学部教員と附属坂出小学校教員との 合同研究会 報告	7
平成 25 年度 教育実践総合センター事業計画	2	退任のご挨拶	7- 9
研究プロジェクト 1. 平成 24 年度実施報告	3	着任のご挨拶	9-10
2. 平成 25 年度概要(計画)	4	教育実践総合センター 活動報告	10-11
第 1 期(4~6 月) 教育実践集中講座 実践報告	5	寄贈図書	11-12
附属高松中学校 教育研究発表会 報告	6	教育実践総合研究第 28 号 原稿募集	12

特集 平成 25 年度 教育実践総合センター事業について

センター長 七條 正典

平成 25 年度の第 1 回管理委員会が 7 月 4 日(木)に開かれ、平成 25 年度の予算案ならびにセンター事業計画等が承認されました。センター事業の内容はほぼ例年通りですが、その主要な柱の一つである研究プロジェクトについては、「教育実習を軸とした実地教育プログラムの改善に関する研究プロジェクト」と「教職を目指す学生への支援体制の構築に関する研究プロジェクト」の二本を掲げています。これら二つのプロジェクトは、平成 27 年 4 月を目途に、実践的指導力を備えた教員養成の充実と、教員採用率の向上を視野に教職支援体制の向上を図るためのセンター改革のプロセスの一環として位置づけております。現在、学部及び附属学校園の先生方と、香川県教育センターの先生方と連携・協力して研究に取り組んでいます。このことにより、一層充実した教員養成につながる事が期待されています。

また、本年度は、客員教授として、高松市総合教育センターの松井保先生と香川県教育委員会義務教育課主任指導主事の石川恭広先生にお願いし、教育実践講座等を担当していただくことになりました。すでに 4 月~6 月には、第 1 回教育実践集中講座を担当していただき、教育法規・学校経営・学級経営・生徒指導等、具体的事例を取り上げながら学生に対してわかりやすいご指導をいただきました。また教員採用を前にした 4 年生に、模擬面接や模擬授業等、具体的で実践的なご指導をいただきました。

さらには、本年度の公開講演会は 3 回の開催を予定しております。いずれも教育委員会や学校現場・大学の研究機関等との連携を図りながら、学校を中心とした教育関係者に役立つ公開講演会となるよう、企画運営に取り組んで参りたいと考えております。

これら本センターの事業においては、本年度もこれまで以上に、香川県教育委員会や香川県教育センター及び附属学校園との連携・協力による研究の推進に努めて参りたいと考えております。どうか本年度もセンター事業の運営・推進にご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



瀬戸の夕風

平成 25 年度 教育実践総合センター 事業計画

I 研究プロジェクト

- 「教育実習を軸とした4カ年を見通した実地教育プログラムの改善に関する
研究プロジェクト」
「教職を目指す学生への支援体制の構築に関する研究プロジェクト」

II 指導プロジェクト

1. 教員養成
 - (1) 「教職概論」
「教育実践基礎演習（フレンドシップ事業）」
「教育実践プレ演習」
「教育実践演習」
「教職実践演習」
 - (2) 教育実践集中講座
2. 教員研修
教員研修に資する研究会の開催及び研修会における指導・助言等
3. 教育相談
 - (1) 教師のための相談活動（学習指導、生徒指導等）
 - (2) 教育相談活動
 - (3) 教職志望学生に対する学内相談体制の整備
4. 共通教育・学部・大学院関連授業科目及び卒論・修論指導

III 教材・資料の収集・管理・共同利用

1. 研究資料（他大学からの研究紀要等及び香川県教育委員会関連出版物）等の収集・管理
2. 教材、機器等の共同利用のための物品などの整備
3. 特殊装置の有効利用のための整備
4. 学習コンテンツの開発・収集

IV 研究活動の報告等

1. 「香川大学教育実践総合研究」の編集
2. 教育実践集中講座資料集の発行
3. フレンドシップ事業実施報告書の発行

V 広報活動

1. インターネットのサイト（ホームページ）の更新・管理
2. センターニュース（年2回）
3. 教師教育用映像情報のVOD配信サービス
4. パンフレット・リーフレットの改訂・発行等

VI 講演会・研究会等の開催

1. 公開講演会
2. 教育実践総合センター研究会
3. その他

VII 関係機関との連携

1. 研究プロジェクト・指導プロジェクトに関わる関係機関との連携
2. その他 地域の各機関との連携
 - (1) 香川県教育委員会
 - (2) 香川県教育センター
 - (3) 高松市総合教育センター 等

研究プロジェクト

1. 平成 24 年度 実施報告

教職実践演習プログラムの開発と実施に関する研究プロジェクト

平成 24 年度は、平成 23 年度より企画推進された「教職実践演習プログラムの開発と実施に関する研究プロジェクト」の 2 年目(最終年度)となりました。

平成 23 年度には、教職実践演習に関わる先行研究のレビューとして、学内の研究及び他大学の研究論文や先行実践を確認し、それらを踏まえて「教職実践演習」の授業内容や実施体制を検討し、具体化していきました。授業内容としては、「教育課題の探究」「授業づくり」「学級経営」「生徒指導等」及び「現地調査・実務研修」を立て、それぞれの内容と授業実施案の策定を進めました。各試行授業後には、学生と授業参観教員に質問紙調査も行い、平成 24 年度に向けた検討課題を確認しました。なお、平成 23 年度の研究成果については、学内の「教職実践演習開設WG」へ提供しています。

それらの研究成果を踏まえ、平成 24 年度の研究プロジェクトでは、全面試行に向けた検討が進められました。現場でなければ身につかないものもあるという限界を認識しながらも、この授業を通して、学生自身がこれまでの自己の学びの最終確認ができるとともに、現場で役立つようなものも提供できるような質の高い授業内容及び実施体制の改善充実を図ることが主眼となりました。また、学生の主体性を導き出せるような授業、授業を運営する際のクラス構成(学生・教員)、評価の在り方等も含めて、様々な視点から議論も行いました。こうしたプロセスを経て、「授業実施計画(学習指導案)」や「ルーブリック」の改訂も進められ、その成果を学内の「教職実践演習開設WG」及び「教職実践演習担当者会議」に提供することができ、10月から全面試行が行われました。

授業終了後の研究プロジェクトでは、各「課題」の担当者から実施報告及び問題点を含む検討課題が報告され、プロジェクト委員一人ひとりから質問や意見を出していただき、平成 25 年度の全面実施へ向けた課題を共有、再確認することができました。なお、これらの成果については、学内の「教職実践演習開設WG」へ提供するとともに、学部附属教員の合同研究集会(2月)でも議論されることになりました。

本研究プロジェクトは、平成 24 年度をもって終了することになりましたが、大学では「質的保障」「4 年を見通した教員養成カリキュラム全体の改善」が大きな検討課題となっています。こうした動向も踏まえつつ、これらの研究成果を、平成 25 年度からの新規研究プロジェクトにつないでいきたいと考えております。

<参考> 平成 24 年度 研究プロジェクトの体制・会合について(概要)

○参加者：学部教員、附属学校園教員、香川県教育センターの先生方 計 28 名

○会 合：全 3 回実施

第 1 回 平成 24 年 6 月 28 日(木)

- ・平成 23 年度の研究プロジェクトの総括について
- ・平成 24 年度の研究プロジェクトの進め方について

第 2 回 平成 24 年 9 月 6 日(木)

- ・「教職実践演習」の実施(計画・体制・評価・内容等)について

第 3 回 平成 24 年 12 月 6 日(木)

- ・「教職実践演習」の全面試行授業の実施報告及び検討について

2. 平成25年度 概要（計画）

附属教育実践総合センターの平成25年度の事業計画で、新規に「実地教育プログラム」「教職支援」を2本柱として、2年間の研究プロジェクトを企画推進することになりました。この2つの研究プロジェクトは、実践的指導力を備えた教員養成の充実と、教員採用率の向上を視野に教職支援体制の向上を図るためのセンター改革のプロセスの一貫として位置づけています。これまで行ってきた研究プロジェクトの成果を生かしつつ、学部及び附属学校園の先生方と、香川県教育センターの先生方と連携・協力し、研究を進めていきます。

新規2本のプロジェクト名、設定趣旨は以下の通りです。

【研究プロジェクト1】

教育実習を軸とした4カ年を見通した実地教育プログラムの改善に関する 研究プロジェクト

今日の教員養成においては、教員として必要な資質能力として、実践的指導力の育成が求められています。これまで、センターでは、平成21・22年度には「教育実習を中心とした学部と附属学校園との連携による支援の在り方に関する研究プロジェクト」、そして、平成23・24年度には「教職実践演習プログラムの開発と実施に関する研究プロジェクト」を通して、教職を目指す学生に対して、実践的指導力の向上を目指した研究を進めてきました。それらを基盤として、1年次から4年次まで（教職概論から教職実践演習まで）の、これまでの実地教育の内容や指導体制の在り方を再点検し、教職を目指す学生にとってより有効性のある実地教育プログラムの改善に関する研究を推進します。

＜会合速報＞7月25日に第1回会合を行いました。まず、研究プロジェクトの設定趣旨について説明し、共通理解を図りました。これまでのセンター研究プロジェクトの成果を生かしつつ、実践的指導力をもった学生の育成を目指し、1年次から4年次までの実地教育の内容や指導体制を見直し改善していくというものです。次に、実地教育の現状と課題について、報告と意見交流を行いました。各担当者からの報告後、委員の先生方からの質疑を通して現在の実地教育の問題点や課題を明確にしていきました。最後に、今後の研究の進め方について確認しました。本年度は、10月と11月に会合を持ち、具体案を検討し、「実地教育プログラム試案」を提起していくこととなります。

（「研究プロジェクト1」文責：山岸 知幸）

【研究プロジェクト2】

教職を目指す学生への支援体制の構築に関する研究プロジェクト

教員養成をより充実したものにするためには、研究プロジェクト1についての実践的指導力の向上を目指した指導内容・指導体制づくりとともに、教職への志望動機を高め、教員採用率の向上にも資する具体的な支援体制が必要と考えています。そこで、研究プロジェクト1を踏まえながら、教職を目指す学生たちへの支援体制の構築に向けた研究を推進します。例えば、教職への志望動機を高めることや、教職に就くことに関する悩みの相談、教員採用試験に関わる支援（面接の練習など）について検討を行う予定です。

＜会合速報＞6月27日に第1回会合が行われました。まず、研究プロジェクト2の設定趣旨について確認をしました。研究プロジェクト1を踏まえながら、研究プロジェクト2では、教職を目指す学生への支援（教職支援）として、主として、教職への志望動機を高める対応、教職に関する悩みへの対応、教員採用試験に関する対応について検討していくことになりました。次に、既に実践されている本学部における教職支援について討議をしました。最後に、研究プロジェクト2の今後の進め方について話し合い、本年度は、後2回の会合を行うことになりました。また、研究プロジェクト2を中心に進めるためのワーキンググループがつけられることになりました。

（「研究プロジェクト2」文責：宮前 義和）

上記＜会合速報＞のとおり、研究プロジェクト1には23名、研究プロジェクト2には21名の参加者を得ることができました。プロジェクト1は7月25日に、研究プロジェクト2は6月27日に第1回会合を開催しました。それぞれの会合では、設定趣旨や研究の進め方についての共通理解を図りました。現在、具体的なレベルでの検討を進めています。（「研究プロジェクト」全体文責：山岸 知幸）

第1期(4~6月)教育実践集中講座 実践報告

教師になるってどういうこと? ～「先生」と呼ばれる日への第一歩～

附属教育実践総合センター客員教授 松井 保・石川恭広

第1期の集中講座では、「教師になるってどういうこと?」と題して、次のような教育活動全般に関する基礎的な内容を中心に、法規や通知等を取り上げたり、演習を取り入れたりしながら学びを進めていきました。

【第1回】4月25日(木) 教育法規

- ・「私の目ざす教師像と教育法規」(松井)

【第2回】5月20日(月) 生徒指導ケーススタディ

- ・「香川の教育現場の今を探る」(石川)

【第3回】6月1日(土) 現場の法規とケーススタディ

- ・学校経営①「教育目標と教師に求められる力」(松井)
- ・生徒指導①「信頼される教師をめざして(体罰、ハラスメント等の根絶)」(石川)

【第4回】6月8日(土) 現場の法規とケーススタディ

- ・学校経営②「教育課程と学校評価」(松井)
- ・生徒指導②「かがやく笑顔をとりもどすために(いじめ・不登校問題等への対応)」(石川)

【第5回】6月15日(土) 現場の法規とケーススタディ

- ・学校経営③「『生きる力』の育成と学力」(松井)
- ・生徒指導③「子どものために手をつなぐ(苦情対応、マスコミ対応、学警連携)」(石川)

教師は、子どもの成長にかかわる責任の重い職業であり、豊かな人間性や社会性、コミュニケーション能力等の資質が求められます。しかしながら、それ以上に教育者としての使命感や情熱、子どもへの愛情をもつことが大切です。私たちは、教師になることの魅力を多くの学生に伝えていきたい。このような強い願いから、「子どもの笑顔に助けられる」「子どもと一緒に夢を追いかけられる」「子どもの成長を喜び合える教師仲間がいる」など、時には私たちのこれまでの経験を熱く語っていきました。

そして、講座後における学生からは、「先生に絶対になります」という強い意志を感じる多くの感想を得ることができました。



附属坂出中学校 教育研究発表会 報告

研究テーマ

〈未来を創造する学びの追求〉

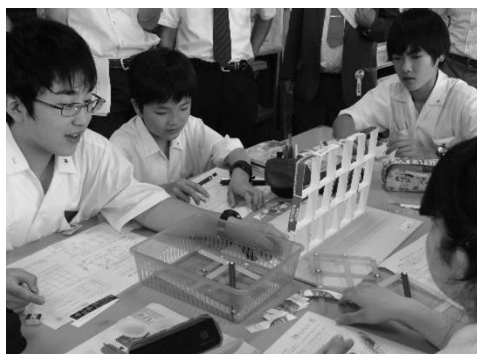
総合的な学習「未来志向科」を生かした教育課程の実践的研究

－教科学習の深化・拡充とトピック的学習－

香川大学教育学部 附属高松中学校

平成 25 年度研究発表会を 6 月 14 日（金）に開催しました。平成 20 年度から平成 23 年度まで、文部科学省研究開発学校の指定を受けて推進してきた研究の成果を生かし、研究主題『総合的な学習「未来志向科」を生かした教育課程の実践的研究－教科学習の深化・拡充とトピック的学習－』のもと、未来志向科を軸とした新たな教育課程についての全体提案を行うとともに、未来志向科及び各教科の授業を公開しました。

また、東京大学理事の磯田文雄先生を迎え、本校の研究についての助言をいただき、筑波大学教授の田中統治先生からは、「カリキュラムという発想による教科指導の質的改善」と題してご講演をいただきました。なお、発表会当日には、県内外から多くの先生方及び教育関係者の方が来校され、授業後の研究協議では活発な意見交換がなされ、今後の研究及び授業の在り方について、貴重な示唆をいただくことができました。



以下、本校の研究内容について簡単にご報告します。

本校では、これからの時代に求められる力を「あらゆる場面で周囲を取り巻く状況を読み取り、柔軟かつ創造的に問題を解決していく力」と考え、その力を育成するために横断的・総合的な今日的な課題を学習内容とした総合教科「未来志向科」を設立し、実践を積み重ねてきました。本研究では、未来志向科を総合的な学習として教育課程の中核に位置付け、教科学習との有機的な関連を図りました。具体的には、未来志向科の各領域で身に付ける力をいくつかの要素にまとめ、教科の本質を追求した学習に生かす「教科学習の深化・拡充」と未来志向科を構成する人間的側面・自然的側面・社会的側面を包括したトピックを用いて教科の特性が表れた授業を具現化する「トピック的学習」の二つの柱での実践研究に努めてきました。これまでの多くの実践・研究討議を通して、総合的な学習を生かした教科学習の在り方や各教科で身に付けるべき力についての分析を深めることができました。



今後は、カリキュラム評価をもとに、実践上の課題の修正する授業実践を重ねるとともに、未来を創造する学びを追求する教育課程について再考していきます。

（文責：三野 健）

学部教員と附属坂出小学校教員との合同研究集会 報告

平成 25 年 5 月 29 日(水)、香川大学教員と附属坂出小学校教員との合同研究集会が開催されました。附属坂出小学校は平成 15 年度より「思考力」に着目し、継続的な実践研究を進めています。平成 21～23 年度の 3 年間は、研究テーマを「知の更新をめざした『思考力』の育成」とし、研究成果を積み重ねてきました。それらを踏まえ、昨年度より、研究テーマ「『思考力』を育成するユニバーサルデザインの授業づくり」のもと、研究を展開してきています。本年度は 2 年次にあたり、サブタイトルを「特別支援教育の考えを生かして、すべての子どもの思考活動を保障する」としました。

研究集会当日は、第 3 学年西組の社会科「めぐって 見えた 学校のまわり」の授業が公開されました。本単元で育成したい「思考力」は「住宅や店の広がり、公共施設の位置、道路の様子等を手がかりに、探検したコースを比較・類別する力」でした。思考に必要な要素として、「建物や交通の様子についての知識」を設定し、その習得・活用を促すために特別支援教育の考えを生かした働きかけを行いました。また、学び合いを活性化するために板書を構造化し、意見の異同を明確にしました。実際の授業場面では、何より活発に授業に参加している児童の様子が印象的でした。



授業参観後の全体会では、本年度の研究についての説明及び授業討議(附坂小型リフレクション)が行われました。本年度の研究の方向性としては、様々な子どもの認知特性や教材の特性に対応するための働きかけ、自分と友だちの考えを関わらせながら学び合いを活性化するための働きかけを探っていくことに重点が置かれています。

全体会後の授業討議では、配布された授業記録なども参考にしながら、学習指導案の検討をはじめ、研究テーマに関わるマクロな視点から、また、一人ひとりの児童に寄り添ったミクロな視点から、討議が進められました。これまで以上に活発な討議会になったように思います。その背景には、この公開授業に向けて、先生方による事前検討や模擬授業が繰り返し行われてきたことがあるようです。

「ユニバーサルデザイン」という視点は、教育実践研究においては非常に重要な今日的視点です。附属坂出小学校教員と大学教員との協働で、この視点から実践研究を深めていくことの大きな意味と可能性を再実感することになった合同研究集会でした。(文責：山岸知幸)

退任のご挨拶

■退任にあたって 公益財団法人 香川県教育会館 理事長 好井貞夫(前・実践センター客員教授)

定年退職後、さらに母校香川大学との深い「縁」を感じながら、実践センターの客員教授として 5 年間(H20～24 年度)務めさせていただきました。皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。

「教育実践集中講座」では、現役時代、教育基本法が改正されましたので、21 世紀の教育に活躍される教員のために、教育改革の実現を目指す講義にと高めていきました。様々な教育法規の改正と将来を見据えた学校の再点検を「教育基本法と学校経営力」、「学校教育法等と教師力」、「学習指導要領と生きる力」を軸として講義しました。また、「要としての道徳教育の在り方」、「生きる力を育む」、「課題に対応する生徒指導の充実」等の相互連携の重要性を学校現場の情報も含めてお話をさせていただきました。学生さんたちから、「教育に対する考えをさらに深めたり、新たなことを学ぶことが出来た。目指すべき教師像について具体的に考える事が出来た。」との感想が寄せられました。さらに教員採用試験目前で模擬面接と模擬授業等も行いました。講義等が長期間に及びましたので、もうすでに教員として学校現場で活躍されているので、嬉しく思っています。

勤務している香川県教育会館は平成 24 年度から公益財団法人となりました。ミューズホールや会議室の利用も増え、教育関係諸団体や新採教員(講義の学生さんも含む)の研修会等にも利用していただき、感謝申し上げます。

■ 1年間お世話になりました 普通寺市立西中学校 教頭 牧野雅弘（前・実践センター客員教授）

1年間、わずか32時間という短い勤務でしたが、香川大学の皆様方には大変お世話になりました。教育センターでの教員研修を主な業務としながらの兼務でしたので、無意識のうちに教員研修と大学の授業を比べていました。どちらも教職の道を究めようとする集団ですが、当然ながら教員の方が、経験や理論に裏付けられた理論をもっているため、議論は盛り上がります。しかし、学生たちには教員にはない初々しさがあり、何も恐れることなく教育の本質を求めようとするなど、無限の可能性を感じました。特に、教育実習後の教育実践演習では、自らの経験をもとに目指す教師像を語る学生に頼もしさを感じましたし、私自身も初心に戻ることででき大いに刺激を受けました。

この4月に、9年ぶりに学校現場に戻り、教科書通りにはいかない教育活動へのもどかしさと楽しさの両面を日々感じております。昨年度卒業し教職の道を歩んでいる学生たちも、おそらく、同様のことを感じながら七転八倒していることと思います。今後とも、情熱をもって子どもたちに愛情を注ぐ学生が多く巣立っていくことを祈念して、退任の挨拶とさせていただきます。

■ 附属高松小学校・高松園舎での元気な2年間

柳澤良明（前・附属高松小学校長・附属幼稚園高松園舎主事）

2013年3月末で、附属高松小学校および高松園舎での2年間の併任期間が終わりました。大学から比較的近くに位置していることから、2年間の在任中、ほとんど毎日、顔を出していました。大きな行事があり、長い時間を過ごすこともありましたが、子どもたちと給食を食べるために30分だけという日もありました。両方に多くの日程が入ってしまった時には、自転車で4往復したこともありましたが、しかし、どのようなときも、「こーちょーせんせーっ！」と園児や児童が声をかけてくれたので、こちらからも手を振って、「元気ビーム！」を出しながら、いつも元気に過ごすことができました。

優秀な先生方が熱心に研究を積み重ねながら常に教育実践に挑み続け、いつも前向きな保護者や卒業生の方が温かく支えて下さっている附属学校・園は、わが教育学部の宝です。附属学校・園はこれからも学部との連携を深めていくことで、ますます大きな宝になると確信しています。活気あふれる学校・園で幸せな時間を過ごさせていただいたことは、私にとって学校教育のめざすべき姿を考える絶好の機会となりました。

お世話になった関係の皆様方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました！

■ 会うことの喜びについて

藪添隆一（前・附属坂出小学校長・附属幼稚園長）

3月に退任してからご無沙汰の後に、坂出市大橋祭りの夕刻に小学校に行ってみた。附属坂出小学校創立百周年の去年は、おそろいのTシャツで連を組み、町を踊り巡ったのは初めての年だったので、二年目の今年はどんな風なのか、参加したくなったのである。行くと、子ども達や保護者の皆さんが喜んでくださった。久しぶりに会うことを心から喜び合うことのできる人間関係が、わずか二年間の在任期間でできたことを実感した。二年目のTシャツが出来ていて、さっそく購入し、これを着て町へ繰り出したのである。町では、声をかけてくださる方々、中学生諸君に会えて、さらに来てよかったと思った。

人と人が会おうことの素晴らしさ！これは何より校・園長職で感じたことであつた。だから、退任直前に小学校の先生方をお願いして「忘れられない子どもとの出会い経験」を書いていただき、私なりの解説を加えた文集をつくったりしたのだった。「会うために会う」ことの意味を改めて感じた次第である。

■ 4年間プラスアルファ、ありがとうございました。

綾川町立綾上小学校長 寺岡英郎（前・附属坂出中学校 副校長）

附属坂出中学校で副校長として4年間（平成21年度～24年度）お世話になりました。もう勤務することはないだろうと思っていた附属坂出中学校に、再度勤務しました4年間は、教諭として勤務していた10年間とは、また違った感覚の4年間でした。特に、大学や附属教育実践センターの先生方との交流も増え、視野を広げる良い機会となりました。また、縁あって知り合いの先生方も多く、大学が身近なものに感じられた4年間でした。大学の先生方との合同研究発表会や附属運営会議など、教育のあり方を大きく見つめ直すことができた魅力的な時間となりました。さらに附属坂出中学校では、これまで暖めてきた教育の理想を追求すべく経営に励めましたことは、私にとって大きな宝となりました。今後も、ここで得られた貴重な経験を生かしながら、また、懐かしみながら、公立の学校現場で頑張っていきたいと思っています。香川大学教育学部ならびに附属学校の今後の発展を心からお祈りいたしております。

■ 3年間、ありがとうございました。

高松市立下笠居小学校 教頭 山下真弓（前・実践センター企画推進委員）

母校である香川大学で教員という立場をいただき、さらに、この教育学部附属教育実践総合センターの企画推進委員でありましたことは、生涯の宝です。教諭でスタートした私ですが、現在、4つ目の職種に邁進しております。それぞれの職種にはそれぞれの特質がありますが、すべて「教育」でつながっています。教育という仕事はほんとうにすばらしいものです。多くの人と関わりの中で自分自身の在り方を問い、牛歩ではあれ、高め続けられています。なんと幸せなことでしょうか。ありがとうございました。勤務校は、平成 27 年度に生活科・総合的な学習の時間の全国大会を受けております。この教科・領域がねらうのは、自己の生き方の探究です。今後も香川大学や附属教育実践総合センターでの出会いを大切に感謝の心でつなぎつつ、子どもたちや先生方、そして保護者や地域の方々々と探究しながら前進していきたいと思っております。たいへんお世話になりました。

■ お世話になりました。

千葉真理（前・実践センター事務補佐員）

平成 23 年 11 月から平成 25 年 5 月末日まで、附属教育実践総合センターにて、事務補佐員として働かせていただきました。大学の事務補佐の仕事は初めての経験ばかりで、至らない点が多々あり、ご迷惑をかけてしまうこともあったのですが、実践センターのあたたかい雰囲気と思いやりのある環境の中で、ひとつひとつの作業を丁寧に教えていただき、自分なりのペースでのびのびと仕事を覚えていけました。あつという間に任期が終わり、完璧に仕事をこなせたとはいえないままの退職となりましたが、こちらで経験できたことをこれからの糧として生かしていきたいと思っております。短い間ではありましたが、大変お世話になりました。ありがとうございました。

着任のご挨拶

■ よろしくおねがいします

実践センター専任教員 植田和也

平成 25 年 4 月 1 日付で、附属教育実践総合センターに着任しましたが、3 月末までは県教委事務局東部教育事務所に勤務しておりました。振り返れば、平成 15 年度から 4 年間を交流人事教員としてお世話になっていましたので、懐かしさも感じながらの半年でした。実践センターの一員として、教員養成や教職支援に精一杯取り組んでまいります。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

■ 志を未来に

実践センター客員教授 松井 保

この度、実践総合センターで、主として教育実践集中講座の客員教授として勤めることとなりました。昨年 3 月に桜町中学校を最後の任地として定年退職し、現在は高松市総合教育センターに研修指導員として勤務しております。教員の研修事業を本務とする仕事に加えて、将来教員を志望している人たちの学業精励にお付き合いできる幸せを感じている次第です。

ともすれば、勇氣、正義感、礼節、惻隱、美的感受性などの大切にしたい情緒が、軽く取り扱われがちな時代になってきたように思います。教員という人を教え、育て、導く専門職に就く者としての志を、ともに確かめつつ歩みたいものだと思います。

■ 「先生になりたい」という夢をふくらませるために

教育実践総合センター客員教授 石川恭広

この度、教育実践総合センター客員教授として勤務することになりました。どうぞよろしくお願いいたします。平成 12～18 年度の 7 年間、附属坂出中学校でお世話になり、現在、香川県教育委員会義務教育課で、香川の生徒指導に関する業務に励んでおります。附属坂出中学校勤務の期間には、理科を中心とした教育実習生とかかわり、今、多くの者が教員として活躍してくれています。中には香川大学職員として附属学校に勤務する者も出てきています。心から嬉しく感じるとともに誇りに思っています。

今回、このような貴重な機会をいただき、先生を夢見る多くの学生が、教育実践集中講座の受講をきっかけに、先生になることへの魅力を一層感じ、少しでも夢から身近な目標として日々の努力を重ねていくよう、微力ではありますが努めていきたいと考えています。

■ 着任のご挨拶

附属高松小学校長・附属幼稚園高松園舎主事 小川育子

平成 25 年 4 月 1 日付で、附属高松小学校に着任いたしました。全く思いもよらぬこと、最も不慣れなことばかりで、副校長先生はじめ附属校の教職員の方々、子ども達、学部の皆さまのご支援を頂き、やっとやっとここまで参りました。

その間、子ども達も教職員の方々も、附属小学校の一員であるという自負と自信を持って、日々の

活動に精力的に取り組まれていること、また、PTA や卒業生、OB の先生はじめ香川県や高松市の教育界の方々など、ほんとにたくさんの皆さまがしっかりと学校を支えて下さっているというが、強く印象に残っております。また、研究開発学校の指定を受けた「分かち合い、共に未来を創造する子どもの育成」を目指した研究で新しい教育課程で、先生と子ども達とが一緒に、楽しく活動に取り組む様子を拝見するのも大きな喜びです。

どうぞ皆さま、附属高松小学校の発展に少しでも貢献できますよう、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

■校長と園長に就任して 附属坂出小学校長・附属幼稚園長 松村雅文

今年の4月に附属坂出小学校長と附属幼稚園長に就任して約半年が経ち、色々な経験をしました。中でも、小学校・幼稚園の子どもたちの素晴らしい反応は印象的です。小学校では朝の挨拶が奨励されていて、校外の道を歩いても挨拶をしてくれます。朝礼でこちらが問いかけると、451名から返事が返ってきて、ノリが良いと感じます。また幼稚園内では園児たちが「いっしょにあそぼう」と声をかけてくれます。椅子に座っていると、驚いたことに、膝の上に登ってきます。文字通りノリが良いのです。このような体験は大学ではまず出来ません。

ある日、道を歩いていると、「えんちょうせんせい、さようなら」と迎える車の中から幼稚園の子どもたちの声が聞こえました。私も「さようなら」と、手を振り返りました。そう、赴任したばかりですが、任期が来れば、学校・園を去ることになります。しかし、私は、この半年の間に、子どもたちとの触れ合いというささやかな、しかし大きな宝物を見つけました。この宝物を原点にして、子どもたちが一段と成長するよう、また学校・園がより良くなるよう、色々なことにおいて微力を尽くしたいと思います。

■附属学校の使命とは 附属坂出中学校 副校長 小林理昭

5年間の附属坂出中学校での勤務を終え、公立中学校に転出してわずか1年、思いもかけず、再びお世話になることになりました。何度も転勤は経験していますが、1年で元の学校に戻るのは初めてです。転出するときには幼かった1年生が、いつの間にかたくましい3年生に成長しており、何か不思議な感じがしています。

さて、公立での1年間は、大変貴重な体験でした。大量採用の時代を迎え、中規模校でも毎年複数回の初任者の配置は当たり前になっています。そこで求められているのは即戦力として使える人材です。卒業、即採用という例も珍しくない今、附属学校での教育実習の重要性が非常に高まっています。また、全国学力・学習状況調査結果の低迷も附属が取り組むべき課題です。知識注入型の授業を乗り越え、思考力・判断力・表現力の向上を図る21世紀型授業を開発することは附属の使命だと考えます。変化する時代の中、附属は何をすべきかを常に問い直していきたいと思っています。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

■自ら考え、行動できる学生に… 教育実践総合センター企画推進委員 大西えい子

人事交流教員として4年目を迎える年に、実践センターの企画推進委員を拝命し、責任の重さを感じております。教育学部では、学生たちが実践的に学ぶことを重視していますが、その中心となって実践的に学べる授業を提供しているのが実践センターです。自ら考え、行動できる学生に成長していくためには、実践的学びは欠かせません。平成23・24年度と試行授業を重ね、本年度から必修化される「教職実践演習」の授業にも実践センターの先生方と共にかかわらせていただいています。大好きな母校で、すばらしい先生方や素直で前向きな学生さんたちと出会えること、責任ある仕事ができることに感謝しながら、限られた期間ではありますが、精一杯努力する所存です。近い将来、同じ学校現場で働くであろう学生さんたちに身に付けてほしい力を意識して、誠意を込めて教育活動に取り組んで参りたいと思っております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

教育実践総合センター 活動報告 (2013/04~09)

4月10日(水)	第一回フレンドシップ事業実施専門委員会
4月11日(木)	教育実践演習 第一回全体指導
4月17日(水)	フレンドシップ事業 オリエンテーション 特別支援教育実践演習 全体オリエンテーション
4月18日(木)	教育実践演習 第二回全体指導
4月22日(月)	第一回専任会議

- 4月25日(木) 教育実践集中講座(第一期1回目)
 5月15日(水) フレンドシップ事業 事前研修
 5月17日(金) 第一回企画推進委員会
 5月20日(月) 教育実践集中講座(第一期2回目)
 5月25日(土)～26日(日) フレンドシップ事業 野外教育体験活動(五色台少年自然センター)
 5月27日(月) 第二回専任会議
 6月1日(土) 教育実践集中講座(第一期3回目)
 6月3日(土) 教育実践集中講座(第一期4回目)
 6月12日(水) 第一回編集会議
 6月15日(土) 教育実践集中講座(第一期5回目)
 6月24日(月) 第三回専任会議
 6月27日(木) 第一回研究プロジェクト②会合
 7月1日(月) 第二回編集会議
 7月2日(火)～3日(水) フレンドシップ事業 野外教育体験活動(屋島少年自然の家:附坂小)
 7月4日(木) 第一回管理委員会
 7月10日(水) 第二回フレンドシップ事業実施専門委員会
 7月12日(金)～13日(土) フレンドシップ事業 野外教育体験活動(屋島少年自然の家:公立小)
 7月22日(月) 第四回専任会議
 7月24日(水) フレンドシップ事業 野外教育体験シンポジウム
 7月25日(木) 第一回研究プロジェクト①会合
 教育実践演習 第三回全体指導
 第五回専任会議
 9月9日(月) 第83回国立大学教育実践研究関連センター協議会
 9月20日(金) 第三回フレンドシップ事業実施専門委員会
 9月25日(水)

寄贈図書(2013/04~09)

平成24年度弘前大学教育学部 フレンドシップ事業報告書 2013年3月	弘前大学教育学部
研究員紀要 第11号(通巻第21号)平成25年3月	弘前大学教育学部附属教育実践総合センター
研究紀要 第21号 2013	宮崎大学教育文化学部附属教育実践総合センター
特別支援教育センター年報 第20号	岐阜大学教育学部附属特別支援教育センター
平成24年度 和歌山大学教育学部 へき地・複式教育実習の取り組み№11 2013.3	和歌山大学教育学部教育実習委員会・附属教育実践総合センター 平成24年度 ジョイント・カレッジ地域連携部門
平成24(2012)年度「子どもとのふれあい体験」実施報告書 平成25年3月	富山大学人間発達科学部附属人間発達科学実践総合センター
文部科学省特別経費プロジェクトー高度な専門職業人の養成や専門教育機関の充実ー 事業報告書 2013年3月	秋田大学教育文化学部教員養成機能の充実プロジェクト推進委員会
教育実践総合センター紀要 2013.3 第12号	長崎大学教育学部附属教育実践総合センター
広島大学心理臨床センター紀要 第11号 Vol.11	広島国際大学心理臨床センター
教育実践総合センター研究紀要 第35号 2013年 学部・附属教育実践研究紀要 第12号	山口大学教育学部附属教育実践総合センター 山口大学教育学部
静岡大学教育実践総合センター紀要	静岡大学教育学部附属教育実践総合センター
教育実践開発研究センター研究紀要 第22号 2013.3	奈良教育大学教育実践開発研究センター
研究紀要一第40号一 平成25年	広島県立教育センター
教員養成カリキュラム開発研究センター 研究年報 vol.12 2013.3	東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター
教員養成カリキュラム開発研究センター主催シンポジウム これからの学校教育と 教員養成カリキュラム(第13回)記録集 授業を構成する力を育てる	東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター
バイディア 滋賀大学教育学部附属教育実践総合センター紀要 Vol.21 2013	滋賀大学教育学部附属教育実践総合センター
教育実践研究 第29号(平成24年度) DVD	佐賀大学文化教育学部附属教育実践総合センター
臨床相談センター紀要第十三集 2013年3月	東京家政大学附属臨床相談センター
心理カウンセリングセンター研究紀要 第7号 2013	花園大学心理カウンセリングセンター
教育実践研究 第30号	熊本大学教育学部附属教育実践総合センター
2012(平成24)年度 熊本大学教育学部フレンドシップ事業 実施・成果報告書	熊本大学教育学部附属教育実践総合センター
教育実践研究紀要 第13号	京都教育大学附属教育実践総合センター機構教育支援センター
立正大学 臨床心理学研究 第11号	立正大学心理臨床センター
鳥取大学 教育研究論集 第3号	鳥取大学 大学教育支援機構 教育センター(教職教育部門)
福井大学教育実践研究 第37号	福井大学地域科学部附属教育実践総合センター
岡山大学で教師を目指そう!一教師教育開発センターの取り組み一	岡山大学教師教育開発センター
教育実践総合センター紀要 No.30	大分大学教育福祉科学部附属教育実践総合センター
教育実践総合センターレポート 第31号	大分大学教育福祉科学部附属教育実践総合センター
教育実践研究 第27号	高知大学教育学部附属教育実践総合センター
心理臨床事例研究 第9号	愛媛大学教育学部附属教育実践総合センター心理教育相談室
埼玉大学 教育学部附属 教育実践総合センター 紀要 No.12	埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター
心理相談研究紀要 第11号	神戸親和女子大学心理・教育相談室
学校教育実践学研究 第19巻	広島大学院教育学研究科附属教育実践総合センター
平成24年度広島大学教育学部フレンドシップ事業 ゆかいな土曜日 実施報告書	広島大学教育学部フレンドシップ事業運営委員会
広島文教女子大学 心理臨床研究 第3号	広島文教女子大学心理教育相談センター、広島文教女子大学大学院 人間学研究科 臨床心理学コース
三重大学教育学部附属教育実践総合センター 紀要 第33号	三重大学教育学部附属教育実践総合センター
札幌学院大学 心理臨床研究 紀要 第13号	札幌学院大学心理臨床センター
教育方法学研究 日本教育方法学会紀要 第38号	日本教育方法学会

愛媛大学教育実践総合センター紀要 No. 31	愛媛大学教育学部附属教育実践総合センター
宇都宮大学教育学部 教育実践総合センター紀要 第36号	宇都宮大学教育学部附属教育実践総合センター
ルーテル学院大学 臨床心理相談センター紀要 2013 Vol.6	ルーテル学院大学 臨床心理相談センター
平成24年度 新潟大学教育学部「フレンドシップ事業」報告書 1年次生を対象とする教育実習カリキュラム開発研究(第14年次)	新潟大学教育学部 教員養成フレンドシップ事業推進室
平成24年度 新潟大学教育学部「フレンドシップ事業」報告書 社会教育施設・団体と連携する「体験的カリキュラム」の開発研究 一第16年次研究一	新潟大学教育学部 「フレンドシップ実習」研究会
平成24年度 新潟大学教育学部「フレンドシップ事業」実施報告書 4年次生を主要な 対象とする教育実習カリキュラムの開発研究 「研究教育実習」の多様な展開 (IX)	新潟大学教育学部 教員養成フレンドシップ事業推進室
平成24年度 新潟大学教育学部「フレンドシップ事業」実施報告書 新潟市教育委員会 との連携協力による「学習支援ボランティア」派遣事業の実施(第10年次)	新潟大学教育学部 教員養成フレンドシップ事業推進室
平成24年度 新潟大学教育学部「フレンドシップ事業」大学院教育における実践的 カリキュラムの開発(第8年次) / 平成24年度「学校インターンシップ」実施報告書	新潟大学大学院教育学研究科学校インターンシップ委員会 新潟大学教育学部 教員養成フレンドシップ事業推進室
研究成果報告書サマリー集(平成24年度終了課題)	独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
秋田大学教育文化学部 教育実践研究紀要 第35号	秋田大学教育文化学部 附属教育実践研究支援センター
第21回 秋田大学教育実践セミナー 「いま、発達障害を考える」 ～「診断がつきにくいけれど支援が必要な子ども」への対応～	秋田大学教育文化学部 附属教育実践研究支援センター

教育実践総合研究(第28号)原稿募集

『香川大学教育実践総合研究』第28号は、**11月29日(金)**原稿受付締切です。
以下投稿要領をご参照の上、奮ってご投稿ください。

香川大学教育実践総合研究 投稿要領

1 (投稿の要領)

香川大学教育実践総合研究(以下「教育実践総合研究」という。)への投稿については、「香川大学教育学部研究報告規程」による他、この要領の定めるところによる。

2 (投稿の内容)

教育実践総合研究は、教科教育、教育臨床など広く教育実践に関する独創的な研究論文・実践報告、資料(研究ノート、研究動向の紹介など)及び香川大学教育学部附属教育実践総合センターの活動報告などを掲載する。

3 (投稿者)

教育実践総合研究に投稿できる者は、「香川大学教育学部研究報告規程」による他、香川大学教育実践総合研究編集会議(以下、「会議」という。)が特に依頼した者とする。

4 (投稿原稿の提出方法)

投稿原稿は、完成原稿とし、原則としてワープロで作成し、ワープロ打ち出し原稿2部と、原稿を保存したフロッピーディスク等を会議に提出する。

5 (投稿原稿の長さ)

投稿原稿の長さは、刷り上がり14頁(1頁は21字×42行×2段)以内を原則とし、偶数頁になることが望ましい。超過する場合は、会議の議を経て認めることがある。

6 (刷り上がり1頁目の形式)

刷り上がり1頁目は、和・英文のタイトル・著者名・所属(所在地)、和文要旨(200字)及びキーワード(5語)を含むものとする。

7 (投稿原稿の取り扱い)

投稿された論文等は査読を行い、会議においてその取り扱いを次のいずれかに決定する。査読者については、会議において決定する。

- (1) 採録 (2) 条件つき採録 (3) 返戻

8 (校正)

校正は原則として3校までとし、投稿者において速やかに行うものとする。その際、印刷上の誤り以外の訂正、挿入、削除は原則として認めない。

附則 本要領は、平成16年4月1日から適用する。

附則 本要領は、平成17年12月14日から施行し、平成17年11月9日から適用する。

附則 本要領は、平成19年4月1日から施行する。

香川大学教育学部附属教育実践総合センターニュース (No. 38)

発行日 平成25年 9月30日

編集発行 香川大学教育学部附属教育実践総合センター 代表者 七條 正典

URL <http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~j-cen/> E-mail jcen@ed.kagawa-u.ac.jp

〒760-8522 高松市幸町1-1 Tel. 087-832-1683 Fax. 087-832-1689